



Science & Global vol.34

本校は、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、探究学習を中心とした生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促す様々な教育活動を行っています。これまで、地域と関わりながら、多くの外部の皆様の協力を得て、先端科学あるいは国際的な社会課題に関する課題研究を中心に、多くの成果をあげてきました。出雲高校では、これからも生徒の資質・能力（コンピテンシー）を伸ばす、意欲的な取組にチャレンジしていきます。

★2年生課題研究 始動!★

本校のSSH事業の目玉として、2年生の課題研究を行っています。1年次に「SS探究基礎」で学んだ探究のスキルを活かし、4月から4人～6人の班を編制し、自ら研究テーマを設定していきます。すべての班に教員が1人ずつ指導・助言にあたる「出雲モデル」を運用し、生徒が主体的に探究する手助けを行っています。6月には「ゼミ別集会」を実施し、似ている分野の研究を進めている班同士でアドバイスをや質疑をすることで、研究の方向性をより明確にしていきました。また、教員も「ゼミ別教員会議」を実施し、教員同士での多面的な意見交換を行いました。今後は仮説を検証するための実験や調査をすすめ、大学の先生方や地域の皆様のご協力をいただきながら、研究を深めていきます。

ゼミ別集会の様子



★第1回SSパワーアップセミナー★

7月13日、15日に、島根大学医学部の浦野健教授にご講演いただきました。13日は3年生対象、15日は1・2年生対象に開催され、演題は「島根大学で進められている新型コロナウイルスに対する治療用中和抗体およびワクチン開発」でした。治療法の確立が進められているコロナウイルスに関わる最先端の内容で、生徒たちは熱心に講演を聴き、質疑応答の際には途中で質疑が打ち切られるほど積極的に質問していました。また、講演後の座談会には多数の生徒が集まり、浦野先生から直接お話を伺いました。

コロナウイルスやワクチンについてだけでなく、現在勉強する意味や、わからないこと・困難なことに対して自分がどう行動するのか等、幅広く深い内容を生徒が感じ取ったことが、講演後のアンケートの内容からわかりました。



質問する生徒と浦野先生



講演後の座談会の様子

★1年生 ディベート大会★

7月中旬、各クラスでディベート大会が行われました。ディベートのテーマは「出雲市は交通網を整備するよりも自然環境の保護を優先すべきである。是か非か。」「eスポーツをオリンピック種目にすべきである。是か非か。」の2つです。生徒たちは論理的な立論をするための根拠を調べ、相手の論を予想したりしながらディベート大会に向けて準備を重ねてきました。本番当日は、鋭い質疑と反駁が飛び交う白熱した試合が続き、生徒たちの論理的思考力の高まりが感じられました。



ディベート大会の様子



大会後に振り返りを行う様子

★3年生 課題研究の集大成★

7月28日、29日に3年生は課題研究の集大成となる発表を行います。3年生はこれまで、2年次での研究成果を地域社会に還元するため、発表の準備を重ねてきました。3年次からは限りある時間の中で、中学生向けに分かりやすく修正したり、政策提言の形にブラッシュアップしたりと、工夫を重ねてきました。また、「発明楽コンテスト」に研究成果を応募し、島根県知事賞を受賞する班もありました。



発表練習の様子



「発明楽コンテスト」で島根県知事賞を受賞

発表の内容は以下の通りです。

○ 理系生徒

・ 「キッズのためのスーパーサイエンス」

本校のオープンスクールに訪れた地域の中학생に対し、課題研究の成果をわかりやすく発表する。

○ 文系生徒

・ 「地域創生に向けた高校生からの提案」

出雲市長様、出雲市役所職員の皆様に対し、課題研究の内容を地域創生に向けた提言として発表する。

・ 「島根大学におけるグローバルセッション」

島根大学に在籍する留学生等に対し、課題研究の内容を英語で発表し、意見交換を行う。

・ 「山陰探究サミット」

探究学習を推進している山陰地区の高校生とともに、課題研究の合同発表を行う。

・ 「風土記の丘での発表会」

出雲国風土記に関する研究活動をおこなっている班が、専門家に対してシンポジウム形式で発表を行う。

学校外での発表活動を通してこれまでの研究成果の総まとめとするとともに、高校までの授業に止まらず、卒業後も探究し続けていくきっかけにしてほしいと考えています。